

## 令和4年度に実施するモニタリング調査等及び 検討会開催について（予定）

### 1. 令和4年度の調査項目（案）

令和3年度に実施した小花之江河植生回復調査、地表水や地下水のモニタリング調査、試行的保全対策を継続して実施する。また、令和4年度には「高層湿原保全対策」の作成を行い、同年第2回科学委員会へ報告する。

令和4年度に実施する調査項目は以下の(1)～(4)の4項目のとおり。

また、今後は保全対策の実施に向けたモニタリングが必要となることから、現在設置しているそれぞれのモニタリング機器及び試行的保全対策の丸太木柵工については令和5年度以降も設置の継続を検討している。

- (1) 小花之江河における植生保護柵設置後の植生回復調査
- (2) 水の収支、地下水、水温・気温等モニタリング調査
- (3) 花之江河における試行的保全対策
- (4) 高層湿原保全対策の作成

#### (1) 小花之江河における植生保護柵設置後の植生回復調査

平成29年度に設置した植生保護柵内外にある調査プロットについて植生調査を実施し、柵内外の植生の回復状況を確認する。他業務で湿原に設置している自動撮影カメラの記録から、シカの湿原利用から派生する踏圧、食害についても状況を把握する。

#### (2) 水の収支、地下水、水温・気温等モニタリング調査

各種計測器機は、令和元年10月に設置後、年に数回データ回収を行ってきたが、令和4年度も引き続き継続調査を行い、4年度までに蓄積してきたデータから流入・流出量を算出し、流量及び降雨量や集水域との関係を明らかにし、当該湿原の水文学的な特徴を把握する。

表 1-1 計測調査地点（令和4年度）

項目	花之江河	小花之江河
水位計による水位観測（通年）	流入1箇所、流出1箇所	なし
水位・流速観測（年数回）	流入2箇所、流出1箇所 ※内、流入1箇所、流出1箇所では水位計による水位観測を行っている。	流入1箇所、流出1箇所
水温度計（通年）	1箇所	1箇所
泥炭層温度計（通年）	1箇所	1箇所
大気圧計（通年）	1箇所	なし
温湿度計（通年）	1箇所	なし
地下水位計（通年）	1箇所	1箇所

(3) 花之江河における試行的保全対策

令和元年度に設置した丸太木柵工の経過観察を引き続き行う。

今後、新たに保全対策を実施する際には、対策を実施することによる急激な流路の変化等が生じないよう考慮しつつ、慎重に丸太木柵工設置を検討する必要があると想定されることから、既設の丸太木柵工の路床の変化等について引き続き観察していく。

(4) 高層湿原保全対策の作成

高層湿原保全対策については、次年度に開催する2回の検討会の中で醸成していきたいと考えている。また、本検討会で検討している保全対策については、毎年度途中経過を屋久島科学委員会へ報告しているが、令和4年度第2回科学委員会では、最終の保全対策を提示する予定としている。

2. 令和4年度高層湿原保全対策検討会の開催について

高層湿原保全対策検討会については2回開催する。1回目は屋久島開催とし、検討会の前日に検討会委員並びに関係行政機関及び地域関係団体による現地視察を行い、保全対策（案）に提示している内容（特に具体的な対策）について、現状の確認と現状を踏まえた意見交換を行う。

翌日に開催する第1回検討会では、現地視察の結果を踏まえて、保全対策（案）について検討を行い、おおよその方向性を固める。

2回目は鹿児島市内で開催することとし、最終の保全対策（案）を提示する。

特に令和元年度から実施してきたモニタリング結果等も踏まえ、湿原の水収支、湿原の成り立ちと変遷、保全目標等を確認した上で、保全対策について、出席者の合意を得て決定したいと考えている。

また、令和4年度第2回科学委員会では、最終の保全対策を提示する予定としている。

表 2-1 令和3年度の検討内容

検討会	開催場所 開催時期	検討内容
第1回検討会	屋久島内 6月頃	1日目（現地視察） 参加者：検討会委員、関係行政機関、地域関係団体 内容：保全対策に提示している内容（特に具体的な対策）について、現状の確認と現状を踏まえた意見交換
		2日目（検討会） ・令和4年度の調査内容について ・保全対策（案）の検討
第2回検討会	鹿児島市内 12月頃	・これまでのモニタリング結果等から、湿原の特徴（水門、地質）等について提示 ・保全対策（最終案）の検討 ・対策の実施に向けた次年度以降の予定